

事業継続計画(BCP)について

事業継続計画(BCP)は、大きな地震だけに備えたものではありませんが、利用者・職員・家族の安全と命に係わる最優先の事態として備える必要があると考えます。2024年4月までの策定が義務付けられています。

法人のBCPは、総論(基本方針)と各事業所のBCPシートから構成されています。今回は、総論についての考え方を説明します。

BCP(事業継続計画)とは

企業が自然災害、大火災、テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合において、事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法、手段などを取り決めておく計画のことです。

基本方針1.

利用者とその家族の生命と安全を守ることが法人の最優先の使命である。

【解説】法人としての最優先の使命です。

基本方針2

職員と家族の生命と安全が守られることが最重要。

【解説】この考え方の基本は、「**我々の最も重要な経営資源は、人材である。人材を失うことこそが、一番大きな危機となる**」という考え方に基づいています。

職員の家族も守るべき対象であることを強調しておきます。職員の家族の生命が守られない状態では、職員の出勤可能な状態を確保できないからです。

そのためにも、それぞれの家庭で怪我をしないよう、当面生活に困らないような対策が重要です。

基本方針3

各拠点での防災対策を徹底する。

【解説】拠点の人と設備を守ることが事業継続につながります。各拠点の日常的な防災力を高めることが、BCPの基本なのです。

基本方針4

指揮命令は、拠点単位と法人単位の2系統とする。

- ・防災活動と事業継続は、拠点単位の通常組織の指揮命令系統を使って統制する。
- ・災害対策本部の役割りは、対策本部を設置し危機管理体制に入ることを宣言し、初動対応に入る。利用者・職員・家族の生命を守る行動を指揮する。情報収集・分析、対策立案、確認・承認。各拠点の意思決定を支援し、意思決定のスピードを上げる。

【解説】防災活動、事業継続については、現場での素早い判断が命であり、拠点の指揮命令系統を使って統制します。

基本方針 5

現地復旧のための戦略として、平時の災害対策を強化し、防災のための準備を行い減災対策を進めていく。

【解説】平時に出来ないことは、非常時には、できない。電源の確保、備蓄など平時の防災力をあげていく。職員が自宅で被災しないなど防災意識の向上。電源の確保。復旧に必要な重要資材・物品の備蓄。

Q. 無くて困った防災グッズ第一位は？

A. モバイルバッテリー(充電機器)

大きな地震を経験された方のアンケートで無くて困った防災グッズは、モバイルバッテリーだったというアンケートがあります。

スマホは、連絡手段、情報収集、時計、ラジオ、ライト、緊急時ブザー、お財布等多くの機能を1台で兼ね備えています。便利なアプリも多くあります。停電でスマホを充電できなくなることは、安全に直結しています。正に**スマホは、命綱**なのです。

充電用のモバイルバッテリーとして、日常使いの物と備蓄用の大容量の物を使い分ける必要があります。大容量の物としては、20,000mAh 以上のもので、性能や価格も色々ですが、写真の 30,000mAh のもので 3,000 円程度でした。

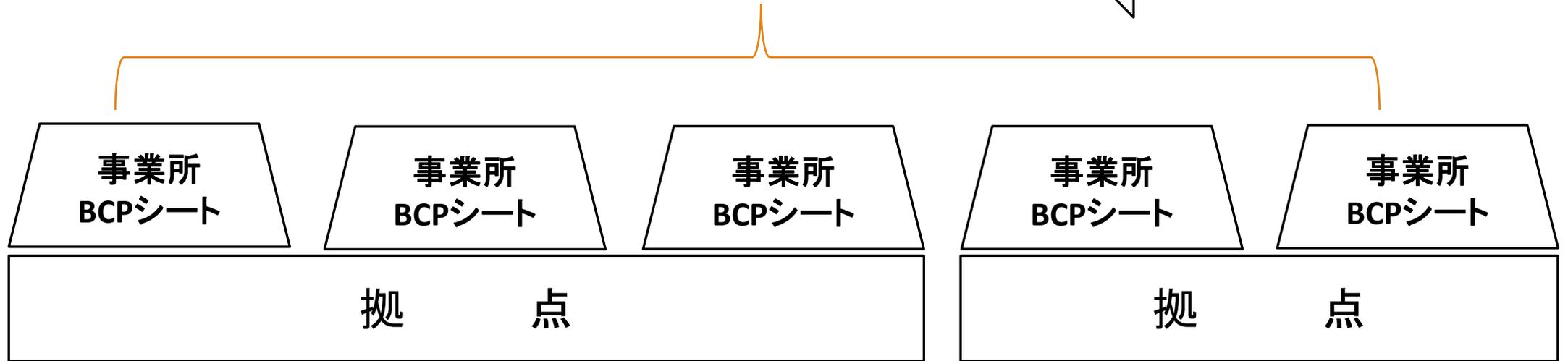
モバイルバッテリーは、旅行やアウトドアなどの日常にも使用するものです。普段使いで非常時もカバーできれば理想的です。

充電機器は、モバイルバッテリーだけでなく、乾電池式、車のシガーソケット、ポータブル電源など色々あります。いざという時の備えは、多くあれば安心です。是非、この機会に考えてみてください。

BCP(事業継続計画)について

総論

基本方針



各拠点での防災対策がBCPに直結する。
準備を重視。事業所内での浸透が重要。
平時にできていないことは、非常時には、できない。

命と安全

職員
家族

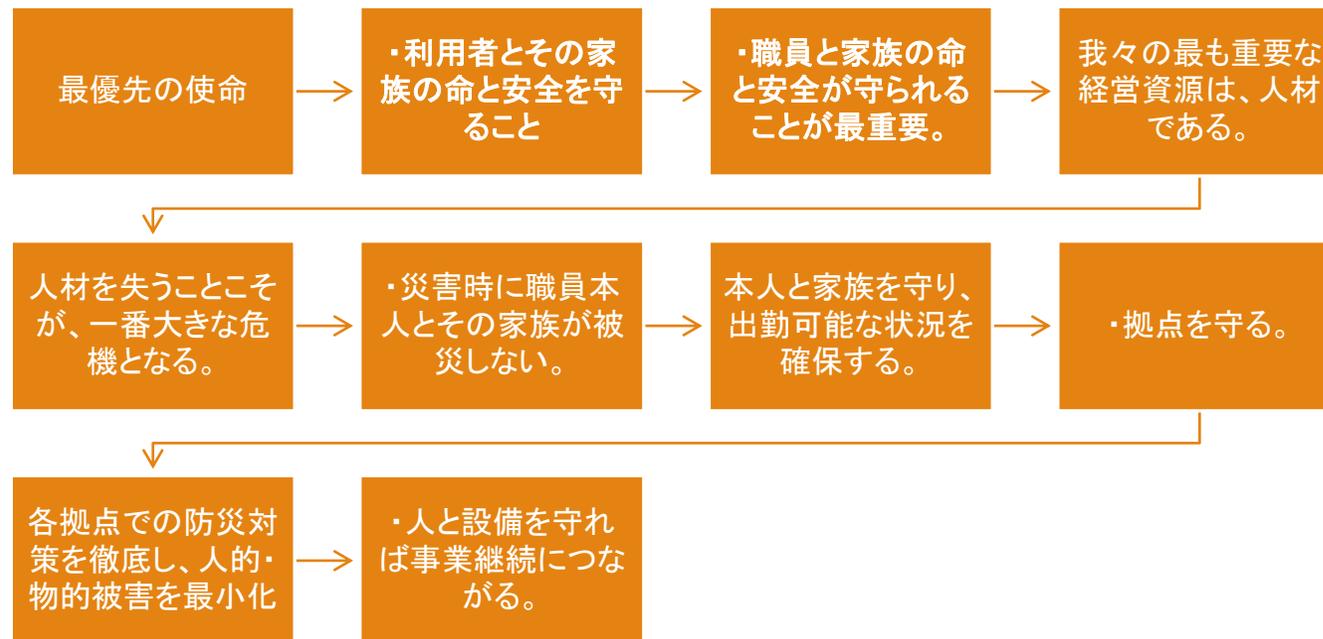
利用者
家族

人材を失うことが
一番大きな危機となる

家庭での防災対策

拠点・事業所の防災
対策

基本方針





無くて困った防災グッズ 第一位は？

充電機器(モバイルバッテリー)

- ・5200mAh(携帯用)

- ・30000mAh(備蓄用)

災害時は、スマホは、命綱

- ・その他にも充電手段はある。





災害時のスマホは、命綱

災害時情報源：NHKニュース防災



・連絡手段として

・災害情報を集める

・時計として

・ラジオとして

・ライトとして

・ホイッスルとして

・お財布として